授業科目名	スポーツ論	単位数	2
担当教員名	林　直樹	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	日本バドミントン協会および日本オリンピック委員会の分析スタッフとしての実務経験を有する。		

「学位授与の方針」との関係

現代社会におけるスポーツの役割を「健康」「教育」「文化」という観点で学修する。スポーツを文化として捉えることで、「人と人」「国と国」「人と自然」という現代社会における様々な関わり合いについてスポーツを通して学修する。主として、立場の違う人・ものを尊重する「スポーツマンシップ」の正しい理解を促していく。このスポーツマンシップは星槎大学が掲げる「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束と深い関わりがある。現代社会の構造とルールを知り、健全に生きていくことについて、スポーツを通して考えていく。これらのことから、科目修得のために「共生」の基本的な理解を追究し、具体的な実践が行えるように学修する。また、共感理解教育の理念を認識し、実践すること。

授業の到達目標及びテーマ

現代社会における「スポーツ」を考えていく。

（１）現代社会は高度経済成長に伴い、医療や交通その他の技術発達により日々進歩を見せている。その反面、運動不足や過食・偏食などの健康問題も多く報告されるようになった。この「健康」と「スポーツ」の関わり合いに関して考える。現代社会において健康に生きるということを現実問題として捉えて自分に置き換え、学習する。

（２）現代スポーツはイギリス産業革命後に発達した競技としてのスポーツである。現代スポーツが、現代社会の中で生き現代社会を支える人間の育成という側面を持つことを明確に理解している人は希有である。スポーツにおいてのみ育むことが出来る「スポーツマンシップ」に関して考える。

（３）現代社会のスポーツは多くの競技がオリンピックを中心に考えられている。2020年に開催が決定していた東京大会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的パンデミックにより2021年に延期・開催された。2度の世界大戦においては中止となった大会が感染症拡大の今回は延期という扱いとなったその真相は何なのか。また、報道などではメダルの獲得に一喜一憂しがちであるが、オリンピズムやオリンピック・ムーブメントの存在を知る人は希有である。「オリンピック休戦」というムーブメントに反した2022年北京オリパラ時のロシアのウクライナへの軍事侵攻なども事例に挙げて、オリンピックの本来的意義を歴史と競技事例から考える。

授業の概要

（１）現代社会において健康に生きるということを、自分自身の生活の中で自分と向き合うことにより考えていく。自分の生活習慣について考え、よりよい生活行動・習慣を構築でき、なおかつ指導が出来ることを目標とする。

（２）イギリスの産業革命がもたらした技術発達や社会制度革新から、近代スポーツは発展した。娯楽・レジャーだけではなく、各種学校において「教科」として取り扱われる意味を考え、「スポーツマンシップ」という言葉が持つ意味を理解することを目標とする。

（３）近代オリンピックの祖・クーベルタン男爵の思い描いたオリンピック競技会と現在の競技会との乖離について歴史を通して学ぶ。その中で教育的価値の高い競技事例からオリンピ

ックの本来的意義を考える。また、COVID-19 感染拡大により 2020 年東京大会が中止ではなく延期という扱いになったことは、オリンピックの歴史の中でも初のことであり、1984 年ロス大会での大会主旨変換が大きく関わっていると言える。このようなことも含めてオリンピックが現代社会へもたらす影響を考えていく。2021 年の東京オリンピックを経て、正しいオリンピック教育の享受を目標とする。

授業計画

第１回：健康の概念、現代社会と健康

第２回：生活習慣病、健康づくり施策

第３回：健康づくり運動、健康スポーツの基礎と実践

第４回：運動・スポーツ習慣の形成

第５回： スポーツとは何なのかを考える

第６回：現代におけるスポーツの役割　スポーツマンシップの養成

・立場が違えば意見も違うということ【2010 年サッカーW杯予選・欧州セカンドレグ、フランスのティエリ・アンリによるハンド事件】

・スポーツマンに求められる能力【2012 年ロンドンオリンピック・女子サッカー予選での引き分け狙いとバドミントン無気力試合】

第７回： 立場が違うものへの「尊重（Ｒｅｓｐｅｃｔ）」

・スポーツの神髄である「尊重（Ｒｅｓｐｅｃｔ）」の精神をもつことが、スポーツが文化となるか否かの鍵【イチローへの敬意-ＭＬＢ年間最多安打記録更新-】

・野球における「敬遠四球」を通してスポーツマンシップを考える【5 打席連続敬遠をされた星稜高校・松井秀喜と明訓高校・山田太郎】

第８回： スポーツの目的

・なぜルールを守らなければならないのか？【バドミントン・桃田賢斗と田児賢一の違法カジノ賭博事件】

・スポーツは利用されやすい【1936 年ベルリンオリンピックを利用したヒトラー】

第９回： フェアプレーの精神

・スポーツの本質を理解した行為【ソチオリンピック、スキー競技におけるカナダ・ワズワースコーチの振る舞い】

・「フェア」が意味する深い理由【はじめの一歩・鷹村守の振る舞い】

・Ｇｏｏｄ Ｌｏｓｅｒ【1982 年サッカーW杯・ジーコの賞賛】

第１０回：自律するということ

・目標の設定と価値観【決めて断つ・黒田博樹の決断】

・本田圭佑の発言と行動

第１１回：現代のスポーツ教育

・スポーツマンシップに学ぶ教育と民主主義【加藤澤男の見事な尊重】

・実践の場で理解出来る指導力が必要【ヌアンコ・カヌの勘違い】

第１２回：「スポーツ・身体・表現」と「共生」

第１３回：近代オリンピックの歴史　クーベルタン男爵の意図したオリンピック

第１４回：パラリンピックとアダプテッドスポーツ【インクルーシブスポーツの創造】

第１５回：スポーツとメディア

e-Sports はスポーツか？【physical sports と cyber sports】

定期試験

スクーリングでの学修内容 全１５回すべての内容を簡単に説明する。 （１）現代社会における健康問題とスポーツの関係（第１回～第４回） （２）現代社会におけるスポーツの社会的役割（第５回～第１１回） （３）スポーツ身体表現専攻の目指すもの（第１２回） （４）現代スポーツ（第１３回～第１５回） （主に、第６回から第１１回の内容を中心にスクーリングを行う。）
教科書 鵤木 秀夫（編）・柴田 真志・高見 和至・寺田 恭子・冨樫 健二（著） 『健康づくりのための運動の科学』化学同人　２０１３年
参考文献 （１）広瀬 一郎『新しいスポーツマンシップの教科書』学研　２０１４年 （２）広瀬 一郎『スポーツマンシップ立国論』小学館　２０１０年 （３）浜田幸絵『＜東京オリンピック＞の誕生』吉川弘文館　２０１８年 （４）出村 慎一『健康・スポーツ科学講義』杏林書院　２００５年
学生に対する評価 スクーリング評価（２５％)、レポート評価（２５％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。